

# た か し



学校運営協議会 E-Mail : takashics2020@gmail.com

～将来に明るい希望と勇気をもち、  
自分も人もよりよく生きることを目指して～

校長 本橋 忠旗

4月を迎え、桜の花も一気に満開を迎え、令和7年度がスタートしました。

昨年度、高井戸第四小学校は創立 85 周年を迎えました。これまで保護者の皆様に支えられ、地域の皆様に愛されて歩んできたその歴史を今後も継続していきたいと思えます。

今年度は、新 1 年生 61 名を迎え、全校児童 429 名、全 15 学級と通級指導学級（たかし教室・ことばの教室）でのスタートとなります。1・2・5 年生は2学級、3・4・6 年生は3学級となります。また、これまでは、教育目標の「進んで学ぶ子」「心豊かな子」「たくましい子」「協働する子」のうち、「心豊かな子」「たくましい子」を重点目標としていましたが、「協働する子」にそれを置き換えしました。これは、仲間とともに学ぶことに楽しさや喜びを感じている本校の児童の強みに由るところからです。

今後は、多様な他者との協働的な学習や話し合い活動の充実を通じて、自他の考えを生かしながら、よりよい考えを見付け出そうとする態度や協働意識、社会参画意識、社会の一員としてよりよく関わろうとする態度の育成を図っていきます。

さて、「平成」の元号の考案者である哲学者 安岡正篤氏（1898-1983）は、著書の中で「思考の三原則」として、次のようなことを書いています。

- ① 目先に捉われず、出来るだけ長い目で見ること
- ② 物事の一面に捉われないで、出来るだけ多面的に全面的に見ること
- ③ 何事によらず枝葉末節に捉われず、根本的に考えること

そして、①について「目先のことにとらわれていると、結論が逆になることがある」

② について、「全体的に見ることができれば、はっきりと結論が出る」

③ について「往々にして結果が正反対になることがあるが、根本に帰って見れば見るほど、物の真を把握することができると解説しています。また、「自分の問題として取り扱う場合と、人の問題として取り扱う場合でも、非常に趣が違ってくる」と当事者意識をもつことの重要性も説いています。

社会や日常の生活で起きる小さな事象でも、少し立場を変えて考えてみたり、その意味合いに思いを巡らせたりする思考の習慣は、児童の主体的な学びの態度や新しい発見、生活に根付いた知識の定着等、知的好奇心をくすぐることにつながります。

入学式・始業式では、「よい学級やよい学年、よい学校は誰かがつくってくれるものではなく、自分たちで努力してつくりあげていくもの」という話をしました。

小学校期は、人格形成の基礎となる時期です。その時期に、縁あって出会った私たちが同じ方向を向き、共に手を携えていくパートナーとして、児童のよき道標となって児童の協働的な学びを形づくっていききたいと思います。そして、児童が将来に明るい希望と勇気を持ち、自分も人もよりよく生きることを目指して広い社会で活躍できるような経験を一緒に積み上げていきたいと考えています。今年度も、皆様のご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。